

「日本語頭」でわかること、「英語頭」でわかること

—— 村上春樹を英語で読む（2 - 4） ——

Haruki Murakami in English 2-4

塩 濱 久 雄

キーワード：英語、日本語、翻訳

要 旨

日本語を英語に訳すとき、原文の日本語の単語を、和英辞典を用いて対応する英単語にし、その英単語を英文法に従って並べれば、英語になる、と思っている学生が多い。

たとえば、原文に「針の先端」とあれば、その英訳は *the point of a needle* となる、と普通考える。

しかし、村上春樹の小説の英訳を調査すると、単に *a(the) needle* と訳されている場合が多い。次の原文とその英訳参照。

青豆はポケットからコルクを取り出し、針の先端に刺した。[1Q84]

Aomame took the cork from her pocket and placed it on the needle.

このような違いが生じるのは、「日本語頭」でわかることと「英語頭」でわかることに差異があるからではないか、というのが本稿のテーマである。

0. はじめに

筆者は2000年の「村上春樹を英語で読む：South of the Border, West of the Sun『国境の南、太陽の西』を中心にして」【山手国文論攷 21号 p15-60 2000/03/31】以来、「村上春樹を英語で読む」をテーマにして研究をしてきたが、本稿では、「日本語頭」「英語頭」をキーワードに、「わかること」の日英差を考える。

ここでの「日本語頭」「英語頭」は筆者の造語であるが、厳密な定義に基づくものではない。大雑把に言えば、日本の教育事情で言うと、中学校に入る13歳以前まで、日本語環境で育った人は「日本語頭」を持っている、その年齢まで英語環境で育った人は「英語頭」を持っていると考える。そして、その「英語頭」の人で日本語を外国語として習得した人たちが、村上春樹の作品を英訳している。

Jay Rubin, Philip Gabriel, Ted Goossen 氏らは、そのような「英語頭」の人と考えられる。しかし、初期の作品の翻訳者である Alfred Birnbaum 氏は、アメリカ人ではあるが5歳から日本に住んでいるということなので、日本語環境でも育っている。そこで、彼は「バイリンガル頭」と呼ぼうと考えているが、根拠薄弱な分類である。

村上春樹はもちろん「日本語頭」の人であるが、『ノルウェイの森』に次のような箇所がある。

直子はソファに座って本を読んでいた。

これは、外に出ていた「僕」が、部屋に戻って、直子の姿を見たときの描写である。この文の英訳は次のようになっている。

Naoko was on the sofa with a book.

英文を直訳すると、「直子は本とともにソファの上にはいた」となる。「読んでいた」が訳出されていない。

これは、「本とともにソファの上にいる」様子を目にしたら、「その本を読んでいる」と「日本語頭」の私たちは考える。しかし、それは「推測」である。しかし、英語は「見たまま」である。訳者は Jay Rubin なので、「英語頭」の人がこのような場面を描写すると「読んでいた」とは言語化しない、ということになる。

以下、そのような観点から、原文と英訳の比較をする。

第1章 語り手にわかるのか？

小説の語り手が「わかること」と「わからないこと」において、日英差があるということ为例証するのが本項の目的である。特記した例を除き『1Q84』から。

- (1) 彼が今夜の会議に出てこなければ、人々はおそらくこの部屋に電話をかけるだろう。しかし受話器をとるものはいない。

When he failed to show up at tonight's meeting, people might ring the room, but there would be no answer.

「受話器をとるものはいない」が there would be no answer と訳されている。「返答がない」ということはわかるが、「受話器をとるものがいたか、いなかったか」はわからない。

「返答があったのだから受話器をとるものがいた」と考えるのは当然ではないか、という考えは、「日本語頭」の人の考えである。

- (2) カーブや曲がり角がやたら多かった。しかしそういうところでも運転手はあまりスピードを落とさなかったので、天吾ははらはらしながら、ドアのグリップにずっとしがみついていなくてはならなかった。

The number of curves and corners was beyond counting, but the driver hardly slowed down for any

of them. Tengo clutched the door's grip in terror.

「なくてはならなかった」が訳出されていない。タクシーの中にいる天吾が「ドアのグリップにしがみついていなくてはならなかった」かどうかはわからない。

- (3) 耳を澄ませると、その静寂にはいくつかの意味あいが含まれているように天吾には感じられた。

Tengo listened to the silence, which seemed to offer several different meanings.

「含まれている」が offer と訳されている。「静寂」が offer (差し出す) してくれなければ天吾には「感じられない」という発想が「英語頭」と考えられる。つまり、「英語頭」の人には「静寂にはいくつかの意味あいが含まれている」という発想は不自然なのかもしれない。

次例(4)も同様である。

- (4) 太っているというのではないが、丸顔でどちらかというとぽっちゃりしていた。いかにも愛想の良さそうな顔だ。胸は大きい。

By no means fat, the woman was round everywhere, including her face, which radiated a truly friendly warmth, and she had big breasts.

「愛想の良さそうな顔だ」が radiated a truly friendly warmth (真の意味での親しげな暖かさを発散している) と訳されている。

(類例)

天吾は歯を磨き、煙草の匂いがついた上着をハンガーにかけ、パジャマに着替えてそのまま眠ってしまった。

He brushed his teeth, hung up his jacket—which reeked of cigarette smoke—changed into pajamas, and went to sleep.

「煙草の匂いがついた」が which reeked of cigarette smoke (煙草の煙の悪臭を放つ) と訳されている。「ついているだけでは臭わない」というのが「英語頭」の発想。

- (5) 青豆は我に返り、顔を上げて相手を見た。

Aomame raised her head and looked at the speaker.

「我に返り」が訳出されていない。語り手にわかるのは、「外から見てわかること」で、あって、この「我に返り」は青豆の視点での表現である。

- (6) 少女が座っていた座席には、模擬試験を受けた帰りらしい中学生の三人組が座った。

Three middle school students now sat where the girl had been sitting.

「模擬試験を受けた帰りらしい」が訳出されていない。次例(7)参照。

- (7) そして大声で賑やかに話を始めた。しかしそれでも少女の静かな残像はまだしばらくのあいだそこに残っていた。

They started jabbering about the practice test they had just taken, but still there lingered in their place the after-image of the silent girl.

ここで、原文にない *about the practice test they had just taken*（受けたばかりのテストについて）が追加されている。(6)にはこれにあたる部分がないので「模擬試験を受けた帰りらしい」が訳出されていない。つまり、何らかの根拠がないと、何かを判断することができないと「英語頭」の人は考える。

- (8) 青豆は乃木坂にあるフランス料理店の名前をあげた。

あゆみはその名前を聞いて息を呑んだ。

Aomame mentioned a certain French restaurant in the Nogizaka neighborhood.

Ayumi gasped.

「その名前を聞いて」が訳出されていない。あゆみが「息を呑んだ」ことは語り手にわかるが、それが「その名前を聞いて」なのかはわからない、と考えるのが「英語頭」である。

- (9) 犬は青豆の顔を覚えていた。

The dog seemed to remember Aomame.

原文にない *seemed* が追加されている。「英語頭」の人には、このようなことは断定できない。

- (10) それから小さく首を曲げて少女に目をやった。

Then, tilting her head slightly, she turned toward the girl.

「目をやった」が *turned toward*（～の方を向いた）と訳されている。次の参考例において、「指の先」だけを回転させるのが不可能なように、「目をやった」という発想自体が「日本語頭」の産物なのかも知れない。

（参考例）

先生は指の先をゆっくり宙で回転させた。

The Professor slowly twirled his finger in space.

「指の先」が his finger と訳されている。「指先」だけを回転させることはできない。

- (11) 月を眺めているうちに、青豆は昨日感じたのと同じような気怠さを身体に感じ始めた。

As she gazed upward, Aomame began to feel the same physical lassitude she had experienced the day before.

「月を眺めているうちに」が As she gazed upward (上のほうに視線を向けている) と訳されている。外から彼女の様子を見ている人には、単に「上を見ている」としか描写できない。「眺めているかどうか」はわからない。

- (12) 天吾は結局二本目のビールを半分残し、海老と野菜炒めを半分残した。

Tengo drank only half his beer and ate only half his shrimp and vegetables.

「英語頭」の語り手には、「飲んだ」「食べた」はわかる（そして言語化できる）が、「残した」とはわからない。

- (13) そして売れ残っている貧相なゴムの木を買ったの。

Instead, I bought this sad little rubber plant, one of the last ones they had.

「売れ残っている」が one of the last ones they had (店にあった最後のものの一つ) と訳されている。目の前にある幾つかの「ゴムの木」が the last ones であることは語り手にわかるが、「売れ残っているかどうか」は「英語頭」の語り手にはわからない。

- (14) 天吾の言ったことを彼がどれだけ理解したのか、表情からはわからなかった。

It was impossible to tell from his expression whether he had understood Tengo or not.

「どれだけ理解したのか」が whether he had understood Tengo or not (理解したのかどうか) と訳されている。表情からはどの程度理解したかは、「英語頭」の語り手にはわからない。

- (15) 牛河はさめたカフェオレを手に取り、まずそうにすすった。それから「安田キョウコ？」と言った。

Ushikawa picked up his cold café au lait and winced as he sipped it. “Kyoko Yasuda?”

「まずそうにすすった」が winced as he sipped it (すするときに顔をしかめた) と訳されている

る。その「顔をしかめた」表情が「まずそうに」である、と思うのは「日本語頭」である。

(16) しかし男はまったく声を出さなかった。

But he bore it in silence.

英文を和訳すると、「しかし彼は黙って耐えた」となる。男が「(意図的に) 出さなかった」のかどうかは「英語頭」の語り手にはわからない。

(17) 僕は煙草の灰を落とすのも忘れ、鼠はビールを飲むのも忘れ、二人はいつも啞然としてその華麗なテクニクを眺めたものだ。『1973年のピンボール』

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

(B) I'd forget to tap the ash off my cigarette, the Rat'd forget to drink his beer. Just watching that commanding display of technique always took our breath away.

「僕は煙草の灰を落とすのも忘れ」が I'd forget to tap the ash off my cigarette と訳されている。また、「鼠はビールを飲むのも忘れ」が the Rat'd forget to drink his beer と訳されている。ほぼ原文の直訳と言える。

一方、グーセン訳(G)は次のようになっている。

(G) It was a dazzling display that left the Rat and me gaping: ash was hanging from the tip of my cigarette, while the Rat's beer was entirely forgotten.

「僕は煙草の灰を落とすのも忘れ」が ash was hanging from the tip of my cigarette（煙草の先から灰が垂れ下がっていた）と訳されている。

筆者はグーセン氏は「英語頭」と考えているが、バーンバウム氏は「バイリンガル頭」と考えている。

そこで、(G)は語り手が見たままが言語化されているが、(B)は登場人物の「僕」の視点で言語化されている。

(18) 双子がぐっすりと眠った後で僕は目覚めた。『1973年のピンボール』

この部分は段落の初めで、その前の部分は話の流れとしては、10ページ以上前の「僕たちは力を落として部屋に戻った」になる。つまり、突然この文で始まるのである。

これは、一人称小説の語り手の文（地の文）であるが、誰にこのようなことがわかるのであ

ろうか？

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

(B) I woke up after the twins were sound asleep.

ほぼ原文の直訳のような英文である。一方グーセン訳(G)は次のようになっている。

(G) The twins were fast asleep when I opened my eyes.

英文を和訳すると、「僕が目覚めたとき双子はぐっすり眠っていた」となる。

一人称小説の場合、村上春樹の原文では、語り手の「僕」と登場人物の「僕」は同一人物で、同一の場所にいるが、その英訳においては語り手の「僕」は、「僕」が登場する舞台上の演技を舞台袖などから眺めていて、その様子を登場人物の「僕」を主語にして語っているように思える。

そしてこの(G)であれば、登場人物の「僕」が目覚めたとき「双子はぐっすり眠っていた」とわかるので、理解できるが、原文そして(B)の場合は、誰にわかることを言語化しているのだろうか？

(19) それから後ろを振り向き、戸口に立っているポニーテイルと視線を合わせた。ポニーテイルは話が理解できていることを示すために小さく一度肯いた。

Then he turned around, toward the door. His eyes met Ponytail's, and Ponytail gave a slight single nod to indicate he understood their conversation.

「ポニーテイルと視線を合わせた」が His eyes met Ponytail's と訳されている。原文では「穏田」という登場人物の視点で「ポニーテイルと視線を合わせた」となっている。

これが、「英語頭」と「日本語頭」の違いであると、筆者は考える。

(20) 牛河は曖昧な笑みを口の脇に浮かべた。

A vague smile played around the corners of Ushikawa's mouth.

英文を和訳すると、「曖昧な笑みが牛河の口の脇あたりに浮かんだ」となる。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

(21) それが自分の手の指であることをたまたま発見して驚いているというような表情で。

He looked surprised to discover that these fingers were his.

「たまたま」が訳出されていない。「英語頭」の小説の語り手にはわからないことなのであろう。

- (22) 気がついたとき、死ぬ決心は既に青豆の中から失われていた。

And she no longer wanted to die.

英文を和訳すると、「そして彼女はもう死にたいとは思っていなかった」となる。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (23) 彼女の心の中でひとつのドアが閉じ、別のドアが開いたような感覚がある。静かに、音もなく。

One door closed inside her heart and another door opened, quietly, without a sound.

「感覚がある」が訳出されていない。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (24) 返事がないとわかると、再びドアを叩き始める。前よりも少し強く。

When there was none, he knocked on the door again, this time a little louder.

「返事がないとわかると」が When there was none と訳されている。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (25) 天吾が東京に戻らず、その海辺の町にしばらく留まっていることがわかると、看護婦たちは彼に親しみを抱き始めた。

Once they discovered that he was not going back to Tokyo, the nurses began to act more friendly.

「親しみを抱き始めた」が began to act more friendly（より親しげに振る舞い始めた）と訳されている。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (26) 二人の若い母親がまだ幼稚園に上がっていない子供たちを砂場で遊ばせている。二人は子供たちからおおむね目を離すことなく、それでも熱心に立ち話をしている。

Two young mothers were watching their children, not yet old enough for kindergarten, playing in the sandbox. They were deep in conversation yet kept their eyes glued to their children.

「子供たちを砂場で遊ばせている」が watching their children playing in the sandbox（砂場で遊んでいる子供を見て）と訳されている。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであ

ろう。

- (27) 重いトラックが前の道路を通ると、窓ガラスがかたかたと震えた。

Whenever a large truck rolled by outside, the windows rattled.

「重いトラック」が a large truck (大きな) と訳されている。「重い」とは英語小説の語り手にはわからない。

原文では、「窓ガラスがかたかたと震えた」ことで「重いトラック」であることがわかる、と語り手は思っているのであろうが、英語小説の語り手には、それはわからない。

- (28) 「なるほど」、副校長は端正な唇の両端をわずかに持ち上げた。

“I see,” the vice principal said, the corners of her lips rising ever so slightly.

「唇の両端をわずかに持ち上げた」が the corners of her lips rising ever so slightly (唇の両端がわずかに上がった) と訳されている。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

しかし、次の参考例参照。

(参考例1)

「なるほど」、副校長は眉を美しい角度に曲げて言った。

“I see,” the vice principal said, raising her eyebrows at a lovely angle.

「眉を美しい角度に曲げて」が raising her eyebrows at a lovely angle と人が主語で訳されている。(28)との違いは不明。

(参考例2)

副校長はその繊細な顎をほんの少し左に傾げ、含みのある笑みを口元に浮かべた。

The vice principal inclined her slender jaw slightly to the left and smiled meaningfully.

「繊細な顎をほんの少し左に傾げ」が inclined her slender jaw slightly to the left と訳されている。(28)との違いは不明。

- (29) 副校長はフレアスカートの裾を美しくひるがえして部屋を出て行った。

The vice principal's flared skirt swished prettily as she exited the room.

英文を和訳すると、「副校長のフレアスカートが、彼女が部屋を出るとき美しくひるがえった」となる。これが「英語頭」の英語小説の語り手が言語化できることなのであろう。

- (30) 青豆は顔の筋肉を緩め、表情をもとに戻す。

Aomame's tight face relaxed, her expression returned to normal.

英文を和訳すると、「青豆の緊張した顔が緩み、表情普通に戻った」となる。これが「英語頭」の英語小説の語り手が言語化できることなのであろう。

- (31) 暗闇の中で牛河は刃物のような笑みを浮かべた。

In the darkness, a razor-thin smile came to Ushikawa's lips.

英文を和訳すると、「暗闇の中で刃物のように薄い笑みが牛河の唇に生じた」となる。これが「英語頭」の英語小説の語り手が言語化できることなのであろう。

- (32) 「高井さん、こんにちは」、ドアの外にいる男はノックをやめて言う。

The knocks stopped. "Hello, Miss Takai," a man's voice said on the other side of the door.

「ノックをやめて」が *The knocks stopped*（ノックが止まった）と訳されている。これが「英語頭」の英語小説の語り手が言語化できることなのであろう。

- (33) 彼の口調はすっかり以前のものに戻っていた。

His voice sounded like the old Komatsu.

英文を和訳すると、「彼の声は以前の小松のように聞こえた」となる。「戻った」とは「英語頭」の英語小説の語り手にはわからないのであろう。

- (34) 小松はまだ来ておらず、天吾が開店してから最初の客らしかった。

Komatsu was not there yet, and Tengu was the first customer of the evening.

「来ておらず」が *was not there*（そこにいない）と訳されている。「来ていない」とは「英語頭」の英語小説の語り手にはわからないのであろう。

- (35) 小松は口を冬の三日月のようにきれいに曲げて笑った。(297)

Komatsu's mouth curled up neatly in a smile, like a crescent moon in winter.

英文を和訳すると、「小松の口は、冬の三日月のように、笑いの中でまがった」となる。「曲げて」とは英語小説の語り手にはわからないのであろう。ただし、次の参考例参照。

(参考例)

小松は鼻の脇に微かに皺を寄せた。

Komatsu scrunched up his nose.

(36) この少女はたしかに何かを持っている。

There was something different about this girl.

英文を和訳すると、「この少女には何か違ったところがある」となる。「持っている」とは「英語頭」の英語小説の語り手にはわからないのであろう。

(37) そして彼の前にはやはり月が浮かんでいる。ただその数は二つに増えている。

The moon was hanging there again, but this time there were two moons, not one.

「ただその数は二つに増えている」が *but this time there were two moons, not one* (しかし今回は一つではなく二つの月があった) となる。「増えた」とはわかるのか? この場合「増えている」は「英語頭」の英語小説の語り手にはわからないのであろう。次の参考例参照。

(参考例1)

それから静かに目を開け、もう一度空を見上げた。冷静な心で、注意深く。しかしそこにはやはり月が二個浮かんでいた。

Then he slowly opened his eyes and looked at the sky again, carefully, his mind calm, but still there were two moons.

(参考例2)

錯覚ではない。月は二個ある。天吾はそのまま長いあいだ右手のこぶしを強く握りしめていた。

This is no illusion. There are two moons. Tengo balled his hand into a fist and kept it that way for a long time.

(38) 人々は白い息を口から吐き、それを風が散らした。

People's white breath swirled away in the air.

英文を和訳すると、「人々の白い息が風に舞った」となる。同じ状況を見て、「英語頭」の英語小説の語り手は、このように言語化するのであろう。目の前の現実を描写しているのである。

(39) そこで店番をしていた黄ばんだ顔をした老人が「ああ、あれはね」という感じで、進んで事情を教えてくれた。

The yellowed old man at the front desk said, "Ah, that place," and volunteered information.

「店番をしていた」が *at the front desk*（フロントデスクに居た）と訳されている。「番」をしていたかどうかは、「英語頭」の語り手にはわからない。

- (40) 老婦人は青豆の隣に座り、いつものように背筋を伸ばし、唇をまっすぐ閉じ、ひそかに呼吸をしている。

The dowager is seated beside her, her back ramrod straight as always, her lips a straight line, quietly breathing.

「背筋を伸ばし」が *her back ramrod straight*、「唇をまっすぐ閉じ」が *her lips a straight line* と訳されている。同じ状況を見て、「英語頭」の英語小説の語り手は、このように言語化するのである。目の前の現実を描写しているのである。

- (41) 天吾はこの公園で誰かと待ち合わせているのだろうか。誰かがここにやってくるのを待っているのだろうか。そうではあるまいと牛河は判断した。天吾の素振りにはそういう気配は見当たらなかった。

Was Tengo meeting up with somebody here? Waiting for somebody to show? Ushikawa didn't think so. Tengo didn't give any signs to indicate that he was looking for someone.

「見当たらなかった」が *Tengo didn't give any signs* と訳されている。同じ状況を見て、「英語頭」の英語小説の語り手は、このように言語化するのであろう。

- (42) そして短い湾曲した脚でそのステップを上がった。冷え切った滑り台のてっぺんに腰を下ろし、天吾が見つめていたのと同じ方向に目をやった。

He clambered up the ladder with his short, bandy legs, sat down on the very top of the freezing slide, and looked up.

「天吾が見つめていたのと同じ方向に目をやった」が単に *looked up* と訳されている。「同じ方向に目をやった」のかどうかは「英語頭」の英語小説の語り手にはわからない。

- (43) 青豆は白い息を吐きながら足音を殺し、公園の前をそのまま何気なく通り過ぎる。

Her breath white, Aomame walked as silently as she could past the entrance to the park.

「白い息を吐きながら」が *Her breath white* と訳されている。また、「足音を殺し」が *as silently as she could* と訳されている。「意図的に吐いた、殺した」かどうかは「英語頭」の英語小説の語り手にはわからない。

- (44) 福助頭は彼女の方にはまったく注意を向けない。

Bobblehead showed no sign that he had noticed her.

英文を和訳すると、「福助頭は青豆に気づいた様子を見せない」となる。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (45) 男が玄関の中に消えるのを見届けてから、青豆は五分待つ。

Aomame waited for five minutes after the man had disappeared inside.

英文を和訳すると、「男が中に消えた後、青豆は五分待った」となる。「見届ける」が訳出されていない。これが「英語頭」の語り手が言語化できることなのであろう。

- (46) 彼の思考が回転数を一段上げる音が受話器から聞こえる。

Aomame could hear the gears shift in his mind.

英文を和訳すると、「青豆には彼の頭の中のギヤが移動するのが聞こえた」となる。「一段上げる」まで英語小説の語り手にわかるのか。次例は類例である。

(類例)

タマルの声が一段階冷ややかになる。

Tamaru's voice turned a little cold.

- (47) 二日前、土曜日の昼に「猫の町」から帰ってきたばかりなのに、またそこに戻らなくてはならない。

He had only returned two days earlier from the cat town, on Saturday afternoon, and now here he was, setting off again.

「またそこに戻らなくてはならない」が and now here he was, setting off again (再び出発しかけている) と訳されている。「戻らなくてはならない」は登場人物の視点である。

- (48) 「父は遺言状を残したのですか？」

“Did my father have a will?”

英文を和訳すると、「父は遺言状をもっていたのですか？」となる。「残した」は、推測であって、英語ではこれを言語化しない。

（参考例）

『アフターダーク』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

あのさ、その残っているサンドイッチだけど、もし食べないならひとつもらってもいいかな。
Uh, those little sandwiches you've got sitting on your plate: if you're not planning to eat them, mind if I have one?

「残っている」が *sitting on your plate* と訳されている。英訳は現状を表現している。なお、次の比較例参照。

（比較例）

「残っているのはツナだけど」

“All that's left are tuna fish.”

この場合は「自分が残した」とわかっているなので、*left* で良い。つまり、推測ではないのである。

- (49) 「うん、お父さんはね、よくベッドの枠を叩いていた。手をベッドの脇からだらんと落として、モルス信号みたいな感じでとんとん、とんとん。こんな風に」
安達クミは真似をして、ベッドの木枠をこぶしで軽く叩いた。
Kumi lightly tapped the wooden bed frame with her fist.

最後の文だけ英訳を付したが、「真似をして」が訳出されていない。この段階で「(天吾の) お父さん」は亡くなっているのも、もちろんこの場にはいない。

しかし、次の参考例参照。

（参考例）

すみれはグラスを手にとり、ミュウの真似をしてワインを注意深く口にふくみ、それから喉の奥に送りこんだ。『スプートニクの恋人』

Taking a cue from Miu, Sumire picked up her glass and very attentively took a sip, held it in her mouth, and then swallowed it.

「真似をして」が *Taking a cue from Miu*（ミュウからきっかけをもらって）と訳されている。「ミュウ」はすみれの雇い主であるが、この場にいる。

- (50) 「いささか妙な質問かもしれませんが」と老婦人は言った。「どうしてその相手はあなたのことを好きにならないのかしら？ 客観的に見て、あなたはとても魅力的な若い女性だと思っただけけど」

“This may be an odd thing to ask, but why do you think he doesn’t love you? Objectively speaking, I think you are a fascinating young woman.”

「どうしてその相手はあなたのことを好きにならないのかしら？」が why do you think he doesn’t love you? (なぜあなたは彼があなたのことを好きでないと思うのか) と訳されている。わかるのか。

- (51) 浮かび上がろうとしたところで、私がそんなことは許しません。

If he ever shows signs of recovery, I will not allow it to happen.

「浮かび上がろうとした」が shows signs of recovery (復活の兆しを示す) と訳されている。この signs がないと、英訳の語り手にはこの部分を言語化できないのであろう。次例(52)も同様である。

- (52) その子たちは初めのうちはごく普通の明るい子供なんだけど、上の学年に行くに従ってだんだん口数が少なくなり、表情がなくなり、そのうちに極端に無感動になり、やがて学校に来るのをやめてしまう。

They show up normal in first grade, just bright, outgoing children, but year by year they grow less talkative, their faces lose any hint of expression. Eventually they become utterly apathetic and stop coming to school.

「なんだけど」が show up と訳されている。「明るい子供」であることが、示されないとわからない。

- (53) マンションにはその日、戎野先生の娘も泊まることになっていた。しかしふかえりはいつまでたってもマンションには帰ってこなかった。

Professor Ebisuno’s daughter was also supposed to spend the night there, but Fuka-Eri never showed up.

「帰ってこなかった」が never showed up (現れなかった) と訳されている。「帰ってこなかった」の「帰って」は目の前の現実には含まれない。

- (54) 「しかし変だな。人間がここにやってくることはないはずなんだが」と誰かが言った。

“That’s weird. There shouldn’t be any humans here,” someone adds.

「やってくる」が be と訳されている。「いるかどうか」はこのせりふの語り手にわかるが、

「やってくる」は目の前の現実には含まれない。

(55) 「いまからそちらに行っていていい」と相手は声をひそめて言った。

“Can I come over now,” a subdued voice asked.

「相手は声をひそめて言った」が a subdued voice (抑えられた声) asked と訳されている。意図的に「声をひそめた」かどうかは「英語頭」の語り手にはわからない。

(56) 男は肩を小さく震わせて笑った。

The man's shoulders trembled with laughter.

英文を和訳すると、「男の肩が笑いで震えた」となる。「男が意図的に震わせ」たかどうかは「英語頭」の語り手にはわからない。

(類例)

彼女は肩を震わせて泣いた。

Her shoulders trembled.

英文を和訳すると、「彼女の肩は震えた」となる。

(57) あなたが無事に戻ってきてくれてとても嬉しい。

I'm so happy you're all right.

「戻ってきてくれて」が訳出されていない。英訳では、「あなたが無事で(目の前にいること)」が「嬉しい」となっている。

(59) 三日目の夜に、山羊が大きく口を開けた。

On the third night, the goat's mouth opens wide.

「山羊が意図的に口を開けた」かどうかは「英語頭」の語り手にはわからない。

(参考例)

リトル・ピープルが消え、山羊の口が再び閉じられたあと、少女は彼らが空気さなぎを隠していったあたりをずいぶん探してみたのだが、どうしても見つけだすことができなかった。

After the Little People have disappeared and the goat's mouth has closed, the girl does a thorough search of the area where they hid the air chrysalis, but she is unable to find it.

この場合には「山羊の口が再び閉じられた」が the goat's mouth has closed と訳されている。

- (60) 心臓は相変わらず、乾いた硬い音を立て続けていた。しかしめまいの感覚は少しずつ薄らいでいった。

The hard, dry sound of his heart continued, but the dizzy sensation was gradually subsiding.

「心臓は相変わらず、乾いた硬い音を立て続けていた」が The hard, dry sound of his heart continued (心臓の硬い乾いた音が続いた) となる。「心臓が音を立て続けた」とは「英語頭」の語り手にはわからない。

- (61) それは水銀灯の奥行きのない光の下では、火星の表面に残された水路のあとのように見える。しかしその水路は何ひとつ彼に教えてくれない。

In the flat light of the mercury-vapor lamp they looked like the canals on the surface of Mars, but they told him absolutely nothing.

「残された」が訳出されていない。誰か(火星?)が過去に作って、それが「残っている」とは「英語頭」の語り手にはわからない。

- (62) 男は顎を一センチほど上下させたが、視線はみじんも揺らがなかった。

The man's chin moved up and down, perhaps a half inch, but his gaze didn't waver.

「意図的に上下させた」かどうかは「英語頭」の語り手にはわからない。「視線はみじんも揺らがなかった」が his gaze didn't waver と訳されているが、次の参考例参照。

(参考例)

彼の唇は水平に結ばれたままだった。表情も揺らがなかった。

His lips remained pressed in a tight horizontal line, and his expression didn't give anything away.

「表情も揺らがなかった」が his expression didn't give anything away (何も明らかにしなかった) と訳されている。

第2章

本章では、「表情」に関して、その英訳が「人が～した」の構文になっている場合と「(表情など)が～になった」の構文になっている場合とに分けて例を示す。

第一章の例と重複する場合がある。

(A) 人が～した

- (1) 青豆は軽く顔をしかめ、腕時計に目をやり、それから顔を上げてまわりの車を眺めた。
Aomame frowned and glanced at her watch. She looked up and studied the surrounding cars.

このように「青豆は顔をしかめ」が Aomame frowned と、原文、英訳ともに主語+動詞という構文になっているものを列挙する。

- (2) 「まさか」と青豆は唇を歪めて言った。
“No way,” Aomame replied, curling her lips.
- (3) 「うるさいわね、もう」と青豆は思い切り顔をしかめたくなるのを我慢しながら言った。それから声をいくぶん柔らかくした。相手を必要以上に怯えさせてはならない。
“Shut up, will you?” Aomame said, trying her best not to frown. I shouldn’t scare him too much, she thought, softening her tone somewhat.
- (4) ふかえりは唇をいったん妙な角度に曲げて、またもとに戻した。説明できない。
Fuka-Eri twisted her lips into a strange angle and then returned them to normal. “Can’t explain.”
- (5) 青豆は顔をもう一度歪めた。
Aomame screwed up her face again.
- (6) 青豆は激しく顔を歪めた。
Aomame twisted her face out of shape.
- (7) 青豆は軽く顔をしかめた。
Aomame put her face into a light frown.
- (8) 混乱し、叫びだしたくなるときによくそうするように、彼女は大きく顔をしかめた。顔中の筋肉が極限近くまで引き伸ばされた。そして彼女の顔は別の人間の顔のようになった。
She frowned hugely, the way she often did when she wanted to scream out loud in confusion, stretching every muscle in her face until she looked like a completely different person.
- (9) これ以上はしかめられないというところまで顔をしかめ、それをいろんな角度にねじまげてから、青豆はようやく顔を元に戻した。
When she had finished distorting her face into every possible angle, Aomame finally returned it to normal.

- (10) 穂田は眉を寄せた。
Buzzcut frowned.
- (11) 彼は顔をしかめ、腕時計に目をやった。
Ushikawa frowned and checked his watch.
- (12) 「性交中断？」と眉をひそめて看護婦は言った。
“Coitus interruptus?” the nurse asked, frowning.
- (13) 牛河は顔をしかめ、深くため息をつき、読み返していたファイルを机の上に放り出した。
Ushikawa frowned, sighing deeply.
- (14) 青豆は思わず大きく顔をしかめる。
Aomame grimaced.
- (15) 「なるほど」、副校長は眉を美しい角度に曲げて言った。
“I see,” the vice principal said, raising her eyebrows at a lovely angle.
- (16) 副校長が眉を曇らせると、目の両端に小さな皺がよった。
The vice principal frowned, tiny lines forming at the corners of her eyes.
- (17) ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン？青豆は大きく顔をしかめる。
Human chorionic gonadotropin? Aomame frowned.
- (18) しかしそこに牛河が加わると、人々はいくぶん眉をひそめ、首をひねることになった。
But with Ushikawa in the mix, people tended to frown and shake their heads.
- (19) 小松は鼻の脇に微かに皺を寄せた。
Komatsu scrunched up his nose.
- (20) 目を細めて天吾の顔を見た。
He narrowed his eyes and looked at Tengo.
- (21) 小松は唇を片方に曲げた。
Komatsu raised one corner of his lips.

- (22) 小松はそのときのことを思い出して顔を軽くしかめた。
Remembering the events, Komatsu frowned.
- (23) 顔をゆがめ、歯をむき出し、両手で意識の暗い水底をさらった。
He frowned, grit his teeth, dredging the dark sea bottom of his mind.
- (24) それから安達クミは厳しく目を細めた。
She narrowed her eyes to slits.
- (25) 牛河は顔をしかめ、あきらめた。
Ushikawa frowned and gave up.
- (26) 牛河は顔をしかめ、不吉な想像を頭から振り払った。
Ushikawa frowned and shook this ominous image from his mind.
- (27) 彼女は蜜やかな暗闇の中で唇を軽く結び、思考を巡らせる。
In the silent darkness she pursed her lips and contemplated.
- (28) 高円寺、と坊主頭は思う。彼は顔を軽くしかめる。そして記憶の暗い底を探る。
Koenji, Buzzcut thought. He frowned slightly, searching the dark depths of memory.

(B) (表情など) が～になった。

- (1) 彼女は薄暗がりの中で激しく顔を歪めた。
Her face performed deep contortions in the darkness.

「顔を歪めた」が Her face performed deep contortions と「顔が～した」と訳され、原文とは構文が異なっているものを列挙する。

- (2) 唇はまっすぐ一文字に閉じられ、何によらず簡単には馴染まない性格を示唆している。
Her lips formed a tight straight line, suggesting that she was not easily approachable.
- (3) ふかえりはワイングラスを持った手を止めて、それについてしばらく考えた。しかし、やはり意見は言わなかった。
Fuka-Eri's hand that held her wineglass stopped moving. She thought about Tengu's remark for a while, but again she offered no opinion.

- (4) ふかえりは何も言わず、眉のあいだに小さなしわを寄せた。
Fuka-Eri said nothing, but a small wrinkle appeared between her brows.
- (5) 何故かはわからないが、彼女は少し顔をしかめた。
For some reason, a slight frown crossed her face.
- (6) 「1Q84年？」と青豆は言った。顔はもう一度大きく歪められた。それは私の作った言葉じゃないか。
“1Q84?” Aomame said, her face greatly distorting. I made that word up!
- (7) 男は顎を一センチほど上下させたが、視線はみじんも揺らがなかった。
The man’s chin moved up and down, perhaps a half inch, but his gaze didn’t waver.
- (8) 彼の唇は水平に結ばれたままだった。表情も揺らがなかった。
His lips remained pressed in a tight horizontal line, and his expression didn’t give anything away.
- (9) 穂田は長い眉をひとつに寄せた。鼻の上に三本のしわが寄った。
Buzzcut’s long eyebrows became one as he frowned. Three wrinkles appeared above his nose.
- (10) 「なるほど」、副校長は端正な唇の両端をわずかに持ち上げた。
“I see,” the vice principal said, the corners of her lips rising ever so slightly.
(参考例)
副校長はフレアスカートの裾を美しくひるがえして部屋を出て行った。
The vice principal’s flared skirt swished prettily as she exited the room.
- (11) 顔の横についた大きな黒い目を素早く動かして、カーテンの隙間から情報を収集する。
The large, inky eyes on either side of its head shifted swiftly, gathering information through a gap in the curtain.
- (12) 小松は口を冬の三日月のようにきれいに曲げて笑った。
Komatsu’s mouth curled up neatly in a smile, like a crescent moon in winter.
- (13) 坊主頭はいったんテーブルの上に視線を落とし、それから顔を上げてもういちど小松を見た。
Buzzcut’s gaze went down to the table for a moment, then he raised his head and looked at Komatsu.

- (14) 小松はしばらく唇をまっすぐ結んで、軽く斜めに曲げていた。
Komatsu's lips were stretched in a tight line for a while, then turned up slightly.
- (15) 牛河は両目を大きく見開き、口を斜めに曲げて開けて死んでいた。
Ushikawa's eyes were wide, his mouth open and twisted to one side in death.
- (16) 天吾は無意識に手を髪にやった。髪は寝癖がついて硬くこわばった塊になっていた。
Tengo's hand went to his hair, which was a mass of cowlicks and knots after sleeping.

これは「表情」の例ではないが、類する例としてここに置く。

(C) 上の両方の構文が一文中で用いられている場合。

- (1) 自分の音楽がそのように聴かれていると知ったら、シベリウスは大きな眉をひそめ、太い首筋にしわを何本か寄せたかもしれない。
If Sibelius knew his music was being treated this way, it was easy to imagine how those large eyebrows would frown, the folds of his thick neck coming together.
- (2) 彼女は唇を曲げ、更に大きく顔を歪める。
Her lips twisted and she grimaced even more.
- (3) 彼はそこで立ち止まり、顔をしかめ、眉を寄せ、その通り過ぎていった何かのかたちを見定めようとした。
He came to an abrupt halt, frowning, his brow knit, as he tried to grab hold of it.
- (4) 彼は顔をぐいとしかめ、その皺の中から牛河に目配せをした。
The old man frowned, and from the midst of those wrinkles came a wink, directed at Ushikawa.

(D) 原文が(2)の構文で、英訳が(1)の構文になっている例。

- (1) 彼の唇は微かに動いて、相応しい言葉を空中に探し求める。でもどこにもそんなものは見つからない。
He moved his lips, just barely, searching for proper words in the air, but they were nowhere to be found.

原文は「唇が動いた」で、英訳は He moved his lips となっている。

第3章

以下、筆者がブログ (<http://blog.goo.ne.jp/h-shiohama>) に書いた、「村上春樹を英語で読む」に関係する記事を本稿に付録として再掲する。

(A) 「ゆで卵」はいつも英語で boiled egg か？

「ロスト・ボール」はいつも英語で lost ball か？

『1973年のピンボール』に次のような箇所がある。

(1) 「ゆで卵は食べる？」僕も気の毒になってそう訊ねてみた。

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

“How about a hard-boiled egg?” I suggested by way of consolation.

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

I felt sorry for him. “How about a boiled egg?” I asked.

このあと次のような文が出てくる。

(2) ゆで卵をむきながら男は話を続けた。

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

The man resumed talking as he peeled his hard-boiled egg.

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

“I’ve been making house calls for twenty years,” the repairman said as he peeled his egg, “but I’ve never seen anything like this before.”

問題の箇所は he peeled his egg だけであるが、(hard)boiled が訳出されていない。

同じく『1973年のピンボール』に次のような箇所がある。

(3) 「ゴルフ・コースを散歩しないか？今日は日曜だからロスト・ボールも多いかもしれない。」

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

“What say we go for a walk on the golf course? Today’s Sunday, so there ought to be a lot of lost balls.”

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

“How about if we take a stroll around the golf course?” I said a little later. “It’s Sunday, so there could be tons of lost balls.”

ともに「ロスト・ボール」が lost balls と訳されている。

このあと、僕たちはゴルフ・コースを歩いて、そして次の文が出てくる。

(4) でもロスト・ボールはひとつもみつからなかった。

As nice as this was, we didn’t find a single ball.

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

But we didn’t find a single golf ball.

今回は(B)が ball で(G)が golf ball と訳され、lost はない。

原文では、まだ目の前にない、これから作るものが「ゆで卵」で、出来上がって目の前にあるのも「ゆで卵」であるが、(1)の(G)は egg としか訳していない。つまり、この例の場合、作る段階では英語は boiled egg であるが、出来て目の前にあるものは egg であると(G)は考えている。

これが「ロスト・ボール」になると、探しに行く前は「ロスト・ボール」は(B)(G)ともに lost balls であるが、探しに行った場面では(B)(G)とも lost は用いられていない。

当然のことながら「ゆで卵」も「卵」であるし、「ロスト・ボール」も「ボール」である。そして、目の前にあるものを描写するときには、見ただけでは「生卵」と「ゆで卵」は同じであるし、ゴルフボール自体に、見て「ロスト・ボール」とわかる性質が備わっているわけではない。

そこで、私は(1)(B)の his hard-boiled egg は原文の日本語に影響された英訳で、自然な英語としては his egg なのではないかと考えている。

(B) 「素(す)振り」「空振り」は概念である

『プログレッシブ和英中辞典』で「素振り」を引くと次のようにある。

素振りをする practice swinging ((a bat, a tennis racket)) (without using a ball); [木刀の] practice (making an attack) with a wooden sword

つまり、practice であることが付け加えられている。

本ブログで「ゆで卵」や「ロスト・ボール」は概念である、と書いたが、この日本語「素振り」も英語の practice swinging も「概念」である。

「ロスト・ボール」に関して再説すると、「ロスト・ボールを捜しにいこう」と言う場合には、言っている人の頭の中にある「ロスト・ボール」なので「概念」であるが、これは英訳されても lost ball になる。しかし、ラフの中に探し当て「あ、ロスト・ボールがあった」という場合には英語では (golf) ball になり、lost ball にはならない。それはこの場合には目の前にある実物で、日本語ではこの場合も「ロスト・ボール」と変わらないが、英語では「概念」を表す語で実物を指すことができないからである。(詳しくは本ブログ9月26日の「概念と実物」と「推測と眼前の出来事」参照)

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

ソフトケースに入った金属バットも置いてあった。青豆はそれをケースから出し、何度か素振りをする。

A metal bat in a soft case was there as well. Aomame took it out of the case and took a few swings.

「何度か素振りをする」が took a few swings と訳されている。小説の語り手が、登場人物が「素振り」をしているところを描写しているのであるが、和英辞典にあった practice はない。これは、青豆がやっていることは、日本語頭の人には「素振り」であるが、英語頭の人には単に swing であるからである。やっている動作は同じである。

『プログレッシブ和英中辞典』で「空振り」を引くと「空振りする」swing and miss とある。次例も同辞書からであるが、(and miss) が省略可となっている。

打者に空振りさせる get a batter to swing (and miss)

また、「空振り三振」には次のような例が挙がっている。

打者は空振りの三振を喫した The batter 「struck out [went down] swinging.

つまり、英語では「空振り」も単に swing である。やっている動作は同じで結果が and miss となるかどうかが違うのである。

(C) 「ロスト・ボール」と「増えていた」

(A) で「ロスト・ボール」について考察した。

私たち日本語話者は、たとえば、たまたまゴルフコースの側を散歩していて、そのあたりの茂みの中にゴルフ・ボールを見つけたら、「ロスト・ボールを見つけた」と言うであろう。

しかし、目の前の「ゴルフ・ボール」が、ゴルファーが打って、行方不明になったものではなく、子どもがおもちゃにしていたが不要になって捨てたものかもしれない。その場合には単なる「ゴルフ・ボール」でしかない。

つまり、見つけた人は、状況から「ロスト・ボール」であろうと推測して、「ロスト・ボールを見つけた」と言ったのである。

英訳では、そのような場合 a lost ball にはならない、ということ。「ロスト・ボールは概念である」という妙なタイトルで指摘したのである。

『1Q84』に次のような箇所がある。

- (1) 天吾が部屋に戻ると、ふかえりは天吾の仕事机の前に座り、小さなポケットナイフを使って熱心に鉛筆を削っていた。天吾はいつも十本ばかりの鉛筆を鉛筆立てに入れているのだが、その数は今では二十本ほどに増えていた。

これは、三人称小説の語り手の文である。天吾が部屋に戻って目にした様子を語っているのであるが、その時点では、鉛筆が「二十本ほどある」ことはわかるが、それが「二十本ほどに増えていた」と書いてあるということは、たとえば、この前の時点では十本だったのが、今二十本ほどあるので、ふかえりが「増やした」のであろう、と語り手が推測して「増えていた」と表現したのであろう。上の「ロスト・ボール」と同様、英語ではこのような推測を言語化しないので、この部分の英訳は次のようになっている。

Back at his apartment, he found Fuka-Eri sitting at his desk, intently sharpening pencils with a small pocketknife. Tengu always kept ten pencils in his pencil holder, but now there were at least twenty.

「その数は今では二十本ほどに増えていた」が now there were at least twenty（今は少なくとも二十本はあった）と訳され、「増えていた」が訳出されていない。

(D) 形容詞用法の whatever はいつも「どんな [いかなる] …でも」と訳すべきか？

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (1) お互いの知識をわけあいましょう。

We should share whatever information we have.

原文にない whatever が追加されている。

通例、このような whatever は次の『プログレッシブ英和中辞典』の形容詞の項の1の用法と考えられる。

- 1 ((関係形容詞 what の強調形)) どんな [いかなる] …でも

I'll give you whatever help I can. できる援助は何でもしましょう

You should accept whatever money comes your way.

手にはいるお金は何でも受け取るべきです (▼ whatever + [名] のあとの関係代名詞は省かれる)。

すると(1)の英文は「どんな情報でもわけあいましょう」の意味になるのであろうか？この場合はそうともとれるが、次例(2)の whatever は筆者にはそのようにはとれない。

- (2) 娘は徐々に自尊心と自信を失い、追いつめられ、諺状態に入り込んでいった。

The daughter gradually lost whatever self-respect and self-confidence she had and sank into a deep depression.

「自尊心と自信を失い」が lost whatever self-respect and self-confidence she had と訳されている。私たちは、原文を読むと「自尊心と自信」がもともと「娘」に備わっていてそれを「失う」と考えるが、英訳を見ると、「自尊心と自信があったとして、その自尊心と自信を失い」と言っているような感じがする。つまり、「自尊心と自信」の存在を前提としていないのである。例(1)も「知識があるとして、その知識をわけあいましょう」と考えて、上のような英訳になっているのではないか？

つまり、辞書の例の whatever help I can は「できる手伝いがあるとして、それを(する)」の意味で、それがこれからすることに関して述べている場合には「どんな [いかなる] …でも」と訳すことのできる文になるのではないか？

次例(3)も筆者は「原理があるとして、その原理はわからない」の意味であると考える。

- (3) 細かい原理はわからないけれど、空気さなぎを通じて、それとも私自身が空気さなぎとしての役割を果たして、私はドウタを生もうとしている。

I don't know all the details of whatever principle's behind it, but I'm giving birth to a dohta. Either through an air chrysalis, or else I'm the air chrysalis.

次例(4)では「残されている記憶」が whatever memories are left と訳されている。「残されている記憶があるとして、それを」の意味であると筆者は考える。

- (4) 今はまだ空白と記憶がせめぎあっている。しかしやがては空白が、本人がそれを望もうと望ままいと、残されている記憶を完全に呑み込んでしまうことだろう。

The vacuum and his memories are still at odds, but eventually, regardless of his wishes, the vacuum will completely swallow up whatever memories are left.

以下、(5)の「原因」が whatever force と訳されて、6)の「事実」が whatever facts と訳されているのも同様である。

- (5) 娘を死に追いやる原因となったものに対して相応の報復を加えようとするはずだ。

She would take suitable revenge against whatever force had driven her daughter to her untimely end.

- (6) 「もちろん論理的に言えば、すべての人間のすべての行動には結果的にそれなりの意味が生じる」と小松は言った。「しかしふかえりの場合には、より深い意味が生じるんだ。彼女にはそういう普通ではない要素が具わっている。だからこちらとしては彼女に関する事実を少しでも確実に押さえておく必要がある」

“Logically speaking, all the actions that everybody takes have a certain significance,” Komatsu said.

“But in Fuka-Eri's case they have a deeper meaning. Something about her is different that way. So we need to be certain of whatever facts we can.”

(E) 「どこかから」は英語で from somewhere か？

グーグルで「どこかから 英語」で検索すると from somewhere がまず出てくる。すると、『世界の終りとハードボイルドワンダーランド』からの(1)のような文の場合、「日本語頭」の人は「どこかから」を from somewhere と訳すであろう。

- (1) 彼女はどこかから毛布を何枚かみつけてきて、それで僕を何重にもくるみ、ストーヴの前に寝かせてくれた。

しかし、この部分のバーンバウム訳は次のようになっている。

She brings several blankets and wraps me in them. I lie by the stove.

「どこかから」は訳出されていない。次例(2)は同作からの類例である。

- (2) 老人は首を振って出ていったが、やがてどこかから雪靴をみつめてきてくれた。
The Colonel shakes his head goes out, and returns with a pair of snow boots.

次例(3)は『1Q84』からの類例である。訳者はルービン氏。

- (3) やがてふかえりがどこかからやってきて彼の左手を握った。
Eventually Fuka-Eri came along and grabbed his left hand.

しかし、次例(4)の場合「どこかから」が from somewhere と訳されている。『1Q84』から。

- (4) 熱心で有能なリサーチャーが高性能の双眼鏡を手に、どこかから天吾の部屋の様子をうかがっている様子が目に浮かんだ。
He could almost picture one of Ushikawa's "eager" and "capable" "researchers" observing Tengo's apartment from somewhere with a pair of high-powered binoculars.

この例の場合、「目に浮かんだ」とあるが、実際の眼前の出来事ではなく、想像上の出来事なので、「どこかから」が from somewhere と訳されていると考える。

次例(5)では「どこかから」が from somewhere else と訳されている。これも眼前の出来事ではなく、いつもそのような服である、と言っているのである。『1Q84』から。

- (5) 彼らが着る服のほとんどはどこかから送られてきた古着だった。
Almost all the clothes they wear are used items sent to them from somewhere else.

(F) 「出向いて」

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

- (1) もし物理的な介入が必要とされるトラブルが生じれば、タマルが出向いて適切に処理した。たとえば夫が行き先を知って、力づくで妻を取り戻しにくるようなケースもないではない。
When troubles arose requiring intervention of a physical nature, Tamaru would head over to the safe house and handle them—say, for example, when a husband would learn of his wife's whereabouts and forcibly try to take her back.

「出向いて」が head over to と訳されている。これは、和英辞典的に処理できる英訳である。

次例(2)は類例である。

- (2) 「相手は用心深い人々です。前もってあなたのバックグラウンドを念入りに調査しているでしょう。でも問題はなかったようです。昨日になってあなたに都内の宿泊所まで出向いてもらいたいという連絡が入りました。場所と時間は決まり次第知らせるということです」

“They are exceedingly cautious people. They’ve already done a thorough background check on you and found no problems. We received word yesterday that they will want you to come to where he is staying. They will let us know as soon as the time and place are set.”

しかし次例(3)参照。

- (3) しかしこれという成果を上げられなかった。だからこそこの気味の悪い二人組が、再びここまで出向いてきたのだ。

But they must not have found anything, which is why they had turned up again in Ushikawa’s office.

「出向いてきた」が turned up（現われた）と訳されている。普通これは和英辞典的には処理できない訳である。これは、この「二人組み」が目の前にいるからである。

それに対して(1)は「～の場合には～が出向く」という、想定上の話であるから、和英辞典的に処理できるのである。

本ブログで何度か扱った話題であるが、たとえば、部屋のドアがノックされたら私たち日本語話者は、「誰か来た」というが、この「来た」は推測である。どこか他のところにいた人が、「やって来て、ドアをノックした」というのは推測である。実際には「やってくる」ところは見えていないのである。

何度か挙げた例であるが、再掲する。『ダンス、ダンス、ダンス』から。

- (4) 十分後に女の子がボーイと一緒にロビーに下りてきた。

Ten minutes later the bellboy and the girl appeared in the lobby.

英文を和訳すると「十分後にボーイと女の子がロビーに現れた」となる。

この女の子は、ホテルの十階に宿泊していて、この段階でホテルを引き払うことになり、「僕」と一緒に東京に帰る、という状況である。「僕」は先にロビーにいる。そこで、原文は「ロビーに下りてきた」となっているのであるが、英訳では「下りてきた」は訳出されていない。

それは、「僕」が実際に見たのは「ロビーに登場した女の子」であって、その子が「下りてきた」ところは見えていないはずである。すると、「下りてきた」は推測である。

もちろん、次の参考例のように、「僕」が自分で「ロビーに下りた」場合は当然 I went down to

the lobby と訳されている。

(参考例)

ロビーに下りてみると、カウンターに例の眼鏡をかけた女の子がいた。『ダンス、ダンス、ダンス』

Then I went down to the lobby and saw that the young woman with glasses was behind the counter.

『1Q84』に戻るが、次例(5)はドアにノックがあった直後の文である。

(5) あるいは深田絵里子が誰かに牛河の行為を通報し、その誰かが出向いてきたのかもしれない。

Or had she informed somebody else of what Ushikawa was up to, and that person was outside the door?

「その誰かが出向いてきたのかもしれない」が that person was outside the door? と訳されている。「誰か来た」の類例と考えられるが、was outside the door (ドアの外にいる) と訳されている。

(G) 「名前をつける」は英語で？

『1973年のピンボール』に次のような箇所がある。

「もしどうしても名前が欲しいのなら、適当につけてくれればいいわ」ともう一人が提案した。

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

“Well, if you simply must have names for us, choose something that seems to fit,” proposed the other.

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

“If we need names,” the other suggested, “why don’t you choose them for us?”

「もしどうしても名前が欲しいのなら」の「名前が欲しい」は「僕」が自分の名前が欲しいわけではないので、(B)では if you simply must have names for us、(G)では If we need names などとなっているが、「つけてくれ」は(B)(G)とも choose と訳されている。

これは、最近はそのようになってきているらしいが、かつてはファーストネームは、英語圏(キリスト教社会?)では、ある選択肢の中から、「選ぶ」ものであったからではないかと考える。

日本では親が願いをこめて子どもに名前をつける、ということがあるが、英語圏では、聖書、

神話関係で出てくる名前の一つを「選んで」子どもにつけるのが習慣なので、上のように choose で訳されているのではないか。現イギリス王室の男子は Charles, William, Henry, George であるし、ビートルズのメンバーは John, Paul, George, Richard (Ringo はあだ名) である。

(H) 日本語は動いていない

『1973年のピンボール』に次のような箇所がある。

おそろしい数の小鳥たちが芝生の上や金網の上から僕たちを眺めていた。

この部分のバーンバウム訳(B)は次のようになっている。

An impressive number of birds watched us from the grass and the chainlink fence.

一方ゲーセン訳(G)は次のようになっている。

A big flock of small birds was sitting on the grass and the chain-link fence, watching us go by.

「僕たちを眺めていた」が(B)では単に us であるが、(G)では us go by となっている。この場面では「僕たち」は移動しているので(G)はこう訳したのであろうが、逆にバーンバウム氏はこの「動き」を訳出する必要性は感じなかったのであろうか？

類例を『1Q84』から。

- (1) 天吾はふかえりと手を握りあいながら、窓の外の風景を眺めていた。

Still holding hands with Fuka-Eri, Tengo watched the scenery go past the train window.

- (2) 牛河はあたりの風景を観察し、番地を読み取り、道順を記憶しようと努めた。

Ushikawa kept track of the scenery passing by, checked the street signs, trying to memorize the route so he could retrace it later on.

- (3) 牛河の手の中でライターが動き回るのを、穩田は辛抱強く見ていた。それから顔を上げた。

Ushikawa toyed with his lighter. Buzzcut's eyes patiently followed Ushikawa's movements, and then he looked up.

「穩田は辛抱強く見ていた」が Buzzcut's eyes patiently followed と訳され、followed が用いられ、「動き」を表している。

なお、『1Q84』原作第三巻では、それまで「坊主頭」と呼ばれていた人物が「穩田」と呼ばれ

ているのであるが、英訳は「坊主頭」に対応する Buzzcut のままである。

(I) 「鏡の曇りで点検する」関係性

『1Q84』に次のような箇所がある。

もちろん息はしているが、耳をすぐそばに寄せるか、あるいは鏡の曇りで点検するかしないと、その確認はできない。

He was breathing, but unless you brought your ear very close, or held a mirror up to his nose to see if it clouded, you couldn't really tell.

「鏡の曇りで点検する」が held a mirror up to his nose to see if it clouded (鏡が曇るかどうか見るために彼の鼻に鏡を持っていく) と訳されている。

我々日本語頭の人は「鏡の曇りで点検する」だけで、具体的に何をするかわかる (と思っている) が、英訳はその「具体的動作」を言語化している。

(J) まず視覚情報？

『1973年のピンボール』に次のような箇所がある。下は、ゲーセン訳である。

波の高くない午後には、突堤の古びた敷石を数えながら灯台まで歩いた。

If the waves were not too high he would walk to the end of the twisting pier, counting its worn flagstones as he went.

原文にない the twisting pier が追加されている。これは、この章の最初に、「無人灯台は何度も折れ曲がった長い突堤の先にぼつんと立っていた」とあるからと考えられる。登場人物の一人の「鼠」が歩いている場面を、語り手の「僕」が描写するとき、その上を歩いている「突堤」の視覚的情報が必要なのではないか。そこで the twisting pier (曲がりくねった突堤) が含まれているのではないか。

ちなみに、バーンバウム訳は次のようになっている。

Toward late afternoon, as the waves died down he'd walk along the jetty out to the beacon, counting the weatherworn paving stones as he went.

やはり、along the jetty (突堤を) が追加されている。

（K）まず視覚情報？（2）

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

一人の男がやってきてカウンター席に座った。連れはいない。

Eventually a man came and sat a few seats away from her at the bar. He was alone.

「カウンター席に座った」が *sat a few seats away from her at the bar* と訳され、原文にない *a few seats away from her*（彼女から二、三席離れて）が追加されている。

参考のためにこの文が含まれる段落を示す。

時間が経過し、客が徐々に増えてきた。気がつくあたりはざわざわという話し声で満ちていた。しかし彼女の求めるタイプの客はなかなか姿を見せなかった。青豆はジン・トニックのお代わりをし、スティック野菜を注文し（彼女はまだ夕食をとっていなかった）、本を読み続けた。やがて一人の男がやってきてカウンター席に座った。連れはいない。ほどよく日焼けして、上品な仕立てのブルーグレーのスーツを着ている。ネクタイの好みも悪くない。派手すぎず、地味すぎない。年齢はおそらく五十前後だろう。髪がかなり薄くなっていて、眼鏡はかけていない。東京に出張してきて、仕事の案件を片づけ、ベッドに入る前に一杯やりたくなったのだろう。青豆と同じだ。適度のアルコールを体内に入れて、緊張した神経をほぐす。

前後を見ても、なぜ *a few seats away from her* が追加されているかはわからない。

ここから、二段落おいて、次の段落ようやくその箇所がある。

青豆はまだ二十歳前の頃から、自分でも何故かはわからないが、髪が薄くなりかけている中年男に心を惹かれた。すっかり禿げているよりは、少し髪が残っているくらいが好みだ。しかし髪が薄ければいいというのではない。頭のかたちが良くなければ駄目だ。彼女の理想はショーン・コネリーの禿げ方だった。頭のかたちがとてもきれいで、セクシーだ。眺めているだけで胸がどきどきしてくる。カウンターの、彼女から席二つ離れたところに座ったその男も、なかなか悪くない頭のかたちをしていた。

ここに「彼女から席二つ離れたところに座った」が出てくる。これを先取りしているのである。座った位置が情景描写に必須の情報なのであろうか。単に「カウンター席に座った」だけでは不足なのであろうか。

ちなみに、ここでも英訳は次のようになっていて、「彼女から席二つ離れたところに座った」は訳出されている。

The man now sitting at the bar two seats away from her had a very well-shaped head—not as perfect as

Sean Connery's, of course, but attractive in its own way.

(L) まず視覚情報？(3)

『1Q84』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

そのときは長い石造りの橋を歩いて渡っている夢を見ていた。

Tengo was just then dreaming about crossing a long stone bridge on a river.

原文にない on a river が追加されている。「橋」の背景に「川」があるのは当然なので言語化する必要はない、とわれわれ日本語話者は考えるが、英訳者は、この情景を描写するときに「川」は言語化する必要があると考えるのであろう。

(M) 「階段を下りて右」：指示とそれを受けての行動の描写

『ふしぎな図書館』に次のような箇所がある。下はその英訳である。

(1) 「階段を下りて右」とその女の人は言った。「まっすぐ進んで、107号室」

“Turn right at the bottom of the stairs,” she replied without looking up. “Go straight down the corridor to Room 107.”

そして、続く地の文は次のようになっている。

(2) 長い階段をおりて右に曲がり、うす暗い廊下をまっすぐ進んでいくと、たしかに107という番号札がかかったドアがあった。

I descended a long flight of stairs, turned right, and walked along a gloomy corridor until, sure enough, I came to a door marked 107.

(1)は「ほく」に対する命令のせりふで、(2)はそれを受けての「ほく」の行動の、語り手による描写である。

「階段を下りて右」という指示は “Turn right at the bottom of the stairs” (階段の下のところでも右に曲がれ) と訳されているが、その指示に従った「長い階段をおりて右に曲がり」は I descended a long flight of stairs, turned right と原文の直訳になっている。

(2)のように「ほく」の行動をカメラで追うように語り手が描写する場合は、日本語と英語はほぼ同じようになっているが、(1)のように、相手にこれからすることを指示する場合には、日英でかなり異なる表現になっている。

これは、(1)の場合指示内容は、妙な言い方であるが「その女の人の」頭の中に入っていることであり、それを言語化しているのである。一方(2)の場合は、小説の語り手が、時系列

で逐一動作を言語化しているのである。

日本語ではこの二つの場合を「区別せず」言語化するが、英語はこの二つの場合を「区別して」言語化しているのではないか。

なお、(2)の後半の「うす暗い廊下をまっすぐ進んでいくと、たしかに107という番号札がかかったドアがあった」が *walked along a gloomy corridor until, sure enough, I came to a door marked 107* (107号室に着くまで歩いた) と訳されているのは、以前から本ブログで話題にしている「語り手が書けることの日英比較」の問題である。「語り手のほく」が「登場人物のほく」の行動を描写すると、こうなるのである。

(N) 「名詞と時間の流れ」

『羊をめぐる冒険』に次のような箇所がある。

- (1) そのようにして人々は青年を認めるようになり、青年も自信を回復した。

Soon, everyone came to recognize the youth's valule, and the youth himself regained his confidence.

「青年」が *the youth* と訳されている。次例も同様である。

- (2) しかしアイヌの青年のそのような奮闘にもかかわらず、開拓民たちの生活は極めて苛酷なものだった。

Yet, even with the practical knowledge of the Ainu youth, the settlers' lot was miserable.

そして物語が進行し、次の(3)のような記述が出てくる。まだ、*the Ainu youth* と呼ばれているが、*by now in his mid-thirties* と説明がある。

- (3) 役人がしばしば姿を見せ、税の徴収と徴兵を行うようになった。それを特に不快に感じたのはアイヌの青年（彼はその頃もう三十代半ばになっていた）だった。

Officials came through to levy taxes and enforce military service. The Ainu youth, by now in his mid-thirties, was particularly upset by these developments.

すると、次例(4)で英訳に変化が出てくる。

- (4) 村で緬羊にもっとも興味を持ったのは例のアイヌ青年であった。

In all the village, it was again the Ainu man, no longer a youth, who showed the greatest interest in sheep.

「アイヌ青年」が *the Ainu man, no longer a youth* (アイヌ人、もはや若者ではない) と訳され、

no longer a youth が追加されている。

そして、次の(5)では、the Ainu man だけになる。

- (5) アイヌ青年はすぐに有能な羊飼いとなり、羊と犬は毎年増えつづけた。

The Ainu man became an able shepherd, and with each passing year the number of sheep and dogs increased.

この間、原文はずっと「アイヌ青年」である。しかし、英訳は the youth から the man へと変化している。名詞に時間が流れているのである。

次例(6)(7)は『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』から。(6)は原文のみ提示する。

- (6) その頭骨の入った箱をペトログラードで馬具屋をやっていた義兄にあずけ、自分はペトログラードから三百キロばかり離れた故郷の村に戻ったの。でもこの男は、どんな理由からかはわからないけれど、二度とペトログラードに戻ることはできず、結局その頭骨は忘れさられたまま長いあいだその馬具屋の倉庫で眠りつづけることになったのね。

次例(7)は後日譚である。

- (7) もちろんこの馬具屋は大学——つまり今のレニングラード大学ね——にこの箱を持って行って、その教授に面会を求めたの。

Naturally, the purveyor of hockey goods took the box to the University—now Leningrad University—and sought a meeting with the Chairman.

「馬具屋」が purveyor ((ホッケー用具) 調達人) と訳されている。これはこの時点では、もう「馬具屋」ではなく、purveyor であるからである。しかし、原文ではここでも「馬具屋」である。上の「青年」と同じようにこの場合も英訳においては、名詞に時間が流れているのであろうか。それとも、「馬具屋」が職業名ではなく、この登場人物に対する「あだ名」のようなものになっているからであらうか。

引用文献 末尾の『』内は本稿で用いた略称である。

- 村上春樹 『風の歌を聴け』（講談社）1979
『1973年のピンボール』（講談社）1980
『ノルウェイの森』（講談社）1987 『ノルウェイ』
『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社）1985
『国境の南、太陽の西』（講談社）1995 『国境の南』
『ねじまき鳥クロニクル』（新潮社）1994～95 『ねじまき鳥』
『スプートニクの恋人』（講談社）1999 『スプートニク』
『海辺のカフカ』（新潮社）2002
『アフターダーク』（講談社）2004
『ふしぎな図書館』（講談社）2005
『1Q84』（新潮社）2009
『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』（文藝春秋）2013 『色彩』
- Haruki Murakami: Wind-up Bird Chronicle (Harvill) 1997
: South of the Border, West of the Sun (Harvill) 1999
: Norwegian Wood (Vintage) 2000
: Sputnik Sweetheart (Harvill) 2001
: Kafka on the Shore (Knopf) 2005
: After Dark (Harvill) 2008
: 1Q84 (Vintage) 2011
: Colorless Tsukuru Tazaki and His Years of Pilgrimage (Knopf) 2014
: Strange Library (Harvill) 2014
: Wind/Pinball (Knopf) 2015

参考文献

- 塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（1）『神戸山手大学紀要14号』（pp139-149）2012
塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（2）『神戸山手大学紀要15号』（pp107-145）2013
塩濱久雄、なぜこう訳されているのか（3）『神戸山手大学紀要16号』（pp99-137）2014